

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会
再生普及行動計画ワーキンググループ(第10回) 議事要旨

平成18年11月9日(木) 18:40~20:30

釧路地方合同庁舎4階 共用第3会議室

【出席者(敬称略)】

再生普及行動計画ワーキンググループ構成メンバー

<個人(所属)>

- ・新庄久志(釧路国際ウェットランドセンター)
- ・永瀬知志

<団体(出席者)>

- ・NPO法人釧路湿原やちの会(雑賀重二)
- ・釧路湿原ボランティアレンジャーの会(近藤一燈美)
- ・釧路市民活動センター わっと、釧路シャケの会(成ヶ澤 茂)
- ・ボランティアネットワーク・チャレンジ隊(佐竹直子、酒田浩之)

<関係行政機関(出席者)>

- ・環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所
(所長/渋谷晃太郎、次長/吉中厚裕、国立公園・保全整備課/川淵義昭)
- ・国土交通省北海道開発局釧路開発建設部(治水課/能代靖己、稲垣乃吾)
- ・林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター(所長/藤村武、白藤末人)
- ・北海道釧路支庁(地域政策部環境生活課自然環境係/後藤達彦、大野美枝)
- ・北海道教育庁釧路教育局(及川 明)
- ・釧路市(環境政策課/池之谷美紀)

再生普及小委員会(所属)

<個人(所属)>

- ・高橋忠一(北海道教育大学釧路校)

再生普及行動計画ワーキンググループ事務局

- ・環境省北海道地方環境事務所 釧路湿原自然保護官事務所(露木歩美)
- ・財団法人北海道環境財団(久保田学、内田しのぶ、無藤雅美)

【議事概要】

事務局 第8回再生普及行動計画ワーキンググループ(以下「行動計画WGと表記」)を開催する。前回以降の事務局環境省の異動に伴い、冒頭、渋谷所長より挨拶。引き続き担当、露木自然保護官の紹介、挨拶。北海道環境財団無藤の退任と内田の復帰の挨拶。
(以下、新庄座長により進行)

議事1 ワンダグリンダ・プロジェクト2006 中間報告

座長 今回は今年度の中間報告と来年度に向けての動きについて検討していく。ではまず議事1ついで事務局からの説明を求める。

事務局 (資料に沿って説明)今年度は、当初22団体・個人による40取り組みでスタートしたが、新たに8件が加わり、現在30団体・個人48件となり、まだ増えると思われる。新たに加わった8団体・個人は、資料1-1のとおり。釧路湿原MTBクラブについては、今回配布したチャレンジ隊による「じゅう箱のスミ」にも掲載されている。村田氏の論文もあわせて今回配布している。

それぞれの取組み実施状況については、資料 1-2 のとおりである。また、資料 1-3 では、すでに終了した取組みの中から、環境コンサルタント株式会社、K I W C、行動計画 WG 事務局無藤が個人で取組んだもの、以上 3 件を記載した。報告様式については後ほど相談させていただくが、この無藤の報告のように、概要に加えて写真を 1 ページ分くらい出せるとよいと思う。

参考資料として、今年の 8 月にワンダグリンドの知名度を問うアンケートを実施した。その結果概要を示した。地元の人が集まるジャスコ、旅行者が集まる JR 釧路駅、自然に関心ある人が集まる温根内ビジターセンターの 3 カ所で、各 30～50 名に質問した。結果は一目瞭然で、釧路湿原自然再生協議会の存在は多少知られているものの、全体構想やワンダグリンド・プロジェクトについては、ほとんど知られていなかった。

座長 まず、取組みの進捗状況について質問や意見があればお願いしたい。

事務局 今回の会議資料には間に合わなかったが、釧路湿原森林環境保全ふれあいセンターより、新たに応募された取組みがある。(会議中に資料追加)

座長 その取組みの説明を、釧路湿原森林環境保全ふれあいセンターより説明をお願いします。

委員 10 月 21 日に標茶町雷別の国有林で学習会と植樹体験を開催し、一般 15 名に参加いただき、これから進める事業の内容説明やシカ柵の試験事業、植樹、森林散策等、計 3 時間ほどの事業を実施した。

座長 参考資料のアンケートについては、性別、年齢、対象など適度にばらついている。自然再生協議会は新聞やテレビなどで知られている、という結果であった。しかし、全体構想よりワンダグリンド・プロジェクトのほうが知られていることは少しショックであった。Q 4、Q 5 の結果も興味深い。具体的な回答は何があったのか？

事務局 アイドリングストップ、コンポスト、ごみの分別などがあった。

座長 これは是非ひきつづきやってもらいたい。これは誰が実施したのか。

事務局 行動計画 WG 事務局(無藤と環境省のスタッフ)で朝 10:00 から 3 回に分けて行った。

座長 資料 1-3 の取組み報告フォーマットについては、冒頭にもあるが、無藤の報告のようにカラー写真を掲載してはとの提案もある。

委員 印刷物はフォーマットのとおりとし、ウェブではカラー写真を掲載してはどうか。

事務局 現在ウェブでは報告書を PDF で掲載しダウンロードできるようになっている。ウェブは行動計画 WG 事務局が作成しているが、1 件ずつの報告を丁寧に記載するのはかなり手間がかかる。

座長 当面は、今回示されたフォーマットで報告を作成することにしたい。

議事 2 ワンダグリンド・プロジェクト 2007 の募集について

事務局 (資料に沿って説明) 募集については資料 2-1 ように予定している。年度内に行動計画 WG 事務局でいったんとりまとめる都合上 3 月 16 日を締切りとするが、その後も時期を問わず応募は受け付けたい。募集の広報についてはチラシ、各種メディア等の他、行動計画 WG 事務局からのメールニュースや管内の校長会での PR 等を考えている。連絡先は北斗にある行動計画 WG 事務局とし、釧路湿原自然再生の普及に貢献する活動であれば、地域を問わず受け入れていきたい。応募様式は資料 2-2 のとおり、昨年よりシンプルなものとし、応募しやすくする。参考までに昨年の募集チラシを今回の資料で配布したが、今度の募集に関しても同じように用意する。

委員 チラシ、ポスターはいつ頃用意するのか。また、中身は変えるのか。昨年より早く配布、掲

示できるようにしてはどうかと思う。

- 事務局 デザインはまだできていないが、年内には作成し、年明けには配布できるようにしたい。
- 座長 資料 2-2 応募様式の「10 の項目（ねらい）」は、応募者がその 10 の項目を知っていなければ書けないのではないか？ 応募者にこの欄を書いてもらうならば 10 の項目の箇条書きを添える必要があるのではないか。
- 事務局 応募希望者には、応募用紙をやりとりする段階で 10 の項目を伝えることになるので、説明はできる。
- 委員 その欄は、応募のあった取組みを行動計画 WG 事務局で判断して決めてもいいのでは。
- 委員 応募者と事務局の思いがずれる場合もあるので、10 の項目を応募用紙に記載して選んでもらえばいいのではないか。
- （一同了承）
- 座長 ではそのように進めていただきたい。ホームページから応募条件や応募様式をダウンロードできるようにすることは可能か？
- 事務局 可能です。
- 委員 後からでも応募ができるよう、応募締切の記載を「第一次締切」等にしてはどうか。また、チラシ・ポスターで応募することへのメリットを書けるとよい。例えばおもしろいものは集中的に広報したり、新聞で取り上げるなど。
- 委員 ポスターの記載の仕方について、「締切」よりは「応募期間」の方がいい。
- 座長 「募集期間」としてはどうか。
- 委員 「期間内の応募は～で公開する」という記載を入れればいいのではないか。
- 座長 「募集期間内に応募のあった取組みは自然再生協議会に報告される」旨の記載にすることでどうか。
- 委員 自然再生協議会への報告ではメリットがあまり感じられないのではないか？
- 座長 「じゅう箱のスミなどに紹介する」ということではどうか。
- 委員 募集期間内に応募された取組みのメニュー（一覧）を印刷して公共施設等に配布されるというようなことができるとメリットになる。
- 座長 前回のチラシ上のメリットは、「関連ネットワークでの PR」「ロゴの使用」などがあげられている。
- 委員 報告書を取りまとめることは重要だが、事前にまとめて周知することがもっと重要だと思う。
- 委員 以前も意見を出したが、取組みの一覧表やカレンダーのようなものがあると大変役に立つ。このような行事に参加する方はほとんどホームページなど見ていない。
- 事務局 カレンダーはつくりたいが、実施者の日程がはっきりしないとできない。
- 座長 「誰がいつごろどんなことをやる」というレベルなら出せるが。釧路湿原国立公園連絡協議会は、お金をかけて年間行事予定のチラシとポスターを作成している。
- 委員 方法はいろいろあると思うが、例えば今度の日曜日に何があるかが書かれてあればいい。
- 座長 具体的な行事案内と、応募案件の周知を分けて考える必要がある。この二つを検討してほしい。
- 事務局 関係 4 市町村の協力を得て、釧路市、釧路町、標茶町、鶴居村の広報誌に、今月からスペースをいただき、ワンダグリンダの行事情報を掲載できることになった。定期的なお知らせのルートがひとつできた。
- 委員 そうしたことを募集案内にメリットとして書き込んでいけばよいと思う。

議事3 その他

- 事務局（資料に沿って今後のスケジュールを説明）前回と手順は同じだが、前回は3月に応募された取組みを6月まで公表できなかったため、その空白期間を埋めるために、再生普及小委員会を前倒して開催したい。
- 委員 行動計画WGと再生普及小委員会のメンバーはかなり重複しているので、同じ日に連続して開催してはどうか。
- 座長 事務局でその方向で検討してほしい。
- 委員 それが可能なら、公開を早めることができる。
- 事務局 4月から感じていることだが、イベント等の事前の情報入手が難しい。情報流通はワンダグリンダ参加者にとってメリットになるはずだが、今現在は行動計画 WG 事務局に具体的な行事情報が入らない状況である。これを改善するためのアイデアやご協力いただけることがあれば、ご提案お願いしたい。
- 委員 ワンダグリンダ参加者がパスワード等で入り、インターネットに自分で書き込めるような仕組みはどうか。メール環境にない人とは差ができてしまうが、インターネットを使える人には自力でできる。
- 座長 今度からは、行事開催の1ヶ月前までに情報をいただければ、市町村の広報誌にも掲載されるようになった。
- 委員 釧路市民活動センター「わっと」ではワンダグリンダの行事情報パネルを用意している。事務局から情報が来れば、すぐ掲載できる。
- 委員 環境省でも「環境らしんばん」というカレンダーを運用しており、全国にも伝えることが可能である。
- 委員 「毎月15日までの情報は、自然再生協議会からマスコミ等に提供することができる」などのメリットを全面に出してはどうか。アンケートからも、自然再生協議会の名前はある程度認知されてきている。
- 事務局 行動計画WGはこうして開催されるが、ワンダグリンダの参加者の集まる場はない。以前、6月にワンダグリンダ報告会を開催しワンダグリンダ参加者に出席してもらったが、これが好評だったので、今回無藤の送別の意も込めて座談会を開催したい。11月14日18:30～21:00に釧路市交流プラザさいわい3階303号室で予定しているので、是非ご参加いただきたい。以上で、本日の行動計画WGを終了とする。

以上